

宅配食におけるリユース等の導入状況に関する調査

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

調理済みの食品を高齢者等に配達する宅配食サービスは、民間業者、社会福祉協議会、社会福祉法人、生活協同組合、特定非営利活動法人等が実施している。近年は、高齢化社会の進行により宅配食市場の拡大が見込まれることを踏まえ、外食産業や小売業等の業態の宅配食サービス事業への新規参入が著しい。本調査は、今後さらに拡大が見込まれる宅配食サービスにおけるびん及びリユース食器の導入状況について実態を調査する。

(2) 調査方法・内容

宅配食サービスにおけるびん及びリユース食器の導入状況について、1) リユース食器のメーカー、卸売業者 2) 大手宅配食サービス事業者に対してヒアリングを行い、現状での宅配食サービスにおけるリユース食器及びびんの使用状況、リユース食器の選択理由及びメリットを整理し、今後のリユース食器の導入・拡大可能性について検討する。

図表 1 ヒアリング対象及びヒアリング内容

ヒアリング対象	ヒアリング内容
1) リユース食器のメーカー、卸売業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宅配食サービス業へのリユース食器の販売状況、飲料容器の現状 ・ リユース食器と使い捨て容器の購入判断ポイント
2) 宅配食サービス事業者	<ul style="list-style-type: none"> <共通> ・ 現状使用している食器の種類 ・ 食器の選択理由 <リユース食器を使用> ・ 回収・洗浄の仕組み ・ リユース食器のメリット <使い捨て容器を使用> ・ 回収・洗浄工程の導入可能性と課題

2. 調査結果

(1) リユース食器のメーカー、卸売業者へのヒアリング

リユース食器のメーカー等へのヒアリングによれば、現状における宅配食サービスに用いられる容器は、特定の地域で事業を行っている社会福祉法人や生協等ではリユース容器が多く用いられ、一方新規参入が著しいコンビニエンスストアやスーパーマーケットでは使い捨て容器が多く用いられる傾向にある。

宅配食における食器の判断の基準として、「商品イメージ」と「洗浄設備の有無」が挙げられた。

① A社

【事業の概要】

- ・ 創立 30 年以上の卸売業で、業務用弁当箱や使い捨て包装容器を販売。製造事業も別会社で行っており、リユース容器、使い捨て容器を製造している。

【宅配食におけるリユース容器の利用状況】

- ・ 宅配食サービスでは、全体的にリユース容器が多い印象である。特に大手居酒屋チェーン等の参入後にリユース容器の販売が伸びてきている。
- ・ また、生協など地域密着型の事業では、リユース容器が選ばれることが多い。
- ・ 一方で、大手のコンビニエンスストアでは使い捨て容器が多いのが現状である。
- ・ 宅食事業の参入が増え、同社にも問い合わせが増えている。(一時期よりは減少)
- ・ 飲料容器は製造していない。

【リユース食器と使い捨て容器の購入判断ポイント】

- ・ 同社は、使い捨て容器とリユース容器の 2 種類の容器を販売していることから、クライアントに対してコスト面での比較情報を提示しながら相談に応じている。相談の結果、リユース容器を選ぶクライアントが多い。コスト情報は、リユース時の購入費、光熱水費、人件費等と、使い捨て時の購入・処分費用等を比較している。
- ・ 購入時の判断ポイントは大きく分けて 2 点あり、「商品のイメージ」と「洗浄設備を有しているか」(あるいは洗浄設備を有している給食センターと契約しているか)が要因になっている。

② B社

【事業の概要】

- ・ 創立 30 年以上の卸売業で、業務用弁当箱、使い捨て包装容器を製造・販売している。
- ・ 産業給食センターを主なクライアントにしている。

【宅配食におけるリユース容器の利用状況】

- ・ 宅食に用いられる容器は、全体的にリユース容器が多い。
- ・ 最近では、市町村等の委託をうけて介護食サービスを行う事業者や、生協や大手居酒屋の宅配食の事例を聞いてリユース容器に関する問い合わせをしてくるケースが多い。
- ・ 大手スーパーやコンビニエンスストアが参入しているが、これらの業界では使い捨て容器が使われている。現在のところ、コンビニからのリユース容器での問い合わせはない。
- ・ 飲料容器を提供する場合はペットボトルが用いられているのがほとんどではないか。

【リユース食器と使い捨て容器の購入判断ポイント】

- ・ 使い捨て食器とリユース食器の判断の基準は、回収・洗浄プロセスのコストと、商品のイメージが大きな要因となっている。
- ・ 商品イメージとしては、夕食を使い捨て容器で食べるのは味気ないという考えからリユース食器が使われることも多い。
- ・ コンビニの場合は、回収・洗浄のランニングコストを考えて使い捨てが使われているように思う。

(2) 宅配食サービス事業者へのヒアリング

リユース食器を使用している事業者に対して、回収・洗浄プロセスとリユース食器のメリット等を把握したうえで、使い捨て容器を使用していると考えられる事業者に対しリユース食器の導入可能性についてヒアリングを行った。

1) リユース食器を使用している

リユース食器を使用している事業者では、弁当の配達時に配達スタッフが前日の空容器を回収し、調理を行っている工場にて洗浄を行っている。リユース食器のメリットとしては、ごみの減量につながることで、利用者とのつながりを感じてもらえることが挙げられた。また、リユース食器を使用することでのコスト的なメリットはあるとは言い難いという回答もあった。

図表 2 リユース食器を使用している事業者へのヒアリング結果

ヒアリング項目	概要
回収・洗浄の仕組み	<ul style="list-style-type: none">・ 平日 5 日間等連続して配達するサービスが多く、配達スタッフが弁当配達時に前日の空容器を回収している。・ 利用者に軽く洗浄することを依頼したうえで、回収後に事業者の調理工場等に設置された洗浄設備で洗浄している。
リユース食器のメリットに関すること	<ul style="list-style-type: none">・ ごみの減量につながる・ 利用者に「つながり」を感じてもらえる・ コスト的なメリットがあるとは言い難い

① C 社

【事業の概要】

- ・ 全国的に宅配食サービスを展開する民間企業。宅配時に安否確認も併せて実施している。
- ・ 基本的に平日（月～金）のに 5 日間をセットとして申込を受け付けている。
- ・ 栄養やカロリーを計算した食事メニューを提供しているが、高齢者に特化したサービスはない。

【弁当容器の種類】

- ・ リユース容器を使用している。

【回収・洗浄のプロセス】

- ・ 基本的に平日 5 日間について毎日配達しているので、弁当の配達時に前日の空容器を回収しており、金曜日のものは月曜日に回収している。
- ・ 利用者には軽く洗浄することをお願いしている。特に夏場は悪臭の原因になる。
- ・ 洗浄は、弁当を調理しているセンターに洗浄設備を設置して実施している。

【容器の選択理由・メリット】

- ・ ごみの減量になることや、容器がリユースされることで利用者^と供給側との「つながり」を感じられると考えている。
- ・ リユース容器のほうがコスト的なメリットがあるとは言い難い。弁当容器に傷がついてしまった場合、嫌がる利用者の方が多いので、買い換えることになる。（厳密な使用回数は把握していないが、20 回以上は間違いなく使用している）

② D社

【事業の概要】

- ・ A 県内を対象として夕食宅配サービスを提供する生協団体。栄養士慣習のメニューを提供し、配達時に安否確認を実施。
- ・ 月～金の5日間を1セットとして毎日弁当を配達している。
- ・ 実際の調理製造・配達は、事業所向け弁当、高齢者福祉施設ケータリング、各種会議・イベント弁当の製造販売を行っている民間企業に委託している。

【弁当容器の種類】

- ・ リユース容器を使用している。

【回収・洗浄のプロセス】

- ・ 弁当の配達時に前日の空容器を回収し、調理を行うセンターに設置する洗浄設備で洗浄している。
- ・ 利用者には、軽く食器用洗剤で洗うことをお願いしている。

【容器の選択理由・メリット】

- ・ 委託先の事業者に任せているため、詳細はわからないが、長年の慣習が続いているものと思われる。

2) 使い捨て容器を使用している事業者

使い捨て容器を使用している大手宅配サービス事業者に対して、容器の種類、容器の選択理由、リユース容器導入上の課題についてヒアリングを行った。

容器の種類については、すべて使い捨て容器である場合と、一部をリユース容器でも提供しているという事業者があった。使い捨て容器の選択理由としては、「衛生的な観点」「容器の軽さ」が理由として挙げられた。また、一部をリユース容器で提供している事業者にその理由を尋ねたところ、「市町村の業務委託で容器が指定されている」とする回答があった。両方の容器で提供できる体制を整えている事業者では、市町村の指定や利用者の希望に応じて容器の種類を決定している。

リユース容器の導入・拡大するうえでの課題について尋ねたところ、リユース容器の場合には利用者に使用後の洗浄を依頼する必要があるとあり、高齢者の場合は洗浄が徹底できずに衛生的な問題が生じることを懸念する意見があった。また、一部をリユース容器で提供している事業者において更にリユース容器の使用量を拡大するにあたっては、新たに洗浄設備の購入が必要であり、設備が高額であることが課題として挙げられた。

図表 3 使い捨て容器を使用している事業者へのヒアリング結果

項目	概要
容器の種類	・ 使い捨て容器のみで提供 ・ 利用者の希望に応じて使い捨て容器とリユース容器の両方に対応
容器の選択理由	<使い捨て容器の選択理由> ・ 衛生的な観点から使い捨て容器を選択 ・ 容器が軽いことが高齢者に喜ばれる

	<p><一部をリユース容器で提供する理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の業務委託でリユース容器を指定されるため
リユース容器導入・拡大するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の場合、洗浄が徹底できないことが懸念される ・洗浄設備が高額であるため拡大には資金が必要

① E社

<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニ大手の関連会社で、全国に約 320 店舗（フランチャイズ）を展開する大手宅配食サービス事業者。150 以上の市町村から業務委託を受けて高齢者への配食サービスを実施。 <p>【弁当容器の種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には衛生の観点から使い捨て容器を使用している。 ・<u>市町村の業務委託ではリユース容器を指定されることが多く、リユース容器での配食にも対応している。</u> <p>【回収・洗浄のプロセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当の配達時に前日の空容器を回収し、調理を行うセンターに設置する洗浄設備で洗浄している。 <p>【容器の選択理由・メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リユース容器は、高齢のお客様の場合、回収を通してふれあいの機会になる点が評価されているように思う。 ・使い捨て、リユースのいずれについても、<u>ユーザー側の要望に対応できる体制を整えている。</u>洗浄設備は高額なため、さらにリユースが拡大する場合には支援があるとありがたい。
--

② F社

<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国にフランチャイズ店舗を多数有する宅配食サービスの大手。特に高齢者にターゲットを絞ったビジネスを展開している。 <p>【弁当容器の種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>使い捨て容器とリユース容器の両方を提供しており、ユーザーの希望に応じて対応している。</u> ・割合はフランチャイズの各店舗では把握されているがわからない。 <p>【回収・洗浄のプロセス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁当の配達時に前日の空容器を回収し、調理を行うセンターに設置する洗浄設備で洗浄している。 <p>【容器の選択理由・メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーのニーズに応えるようにしている。

③ G社

【事業の概要】

- ・ コンビニ大手の関連会社が展開する宅配サービス。高齢者に特化せず、幅広い消費者層をターゲットとしている。

【弁当容器の種類】

- ・ すべて使い捨て容器を使用している。

④ H社

【事業の概要】

- ・ 一般家庭向けと事業所向けの宅配食サービスを全国的に展開。配達時に安否確認サービスを実施している。
- ・ 宅配食は、一般的な弁当のほか、カロリーや栄養素が計算されたメニューや高齢者を意識した食べやすいメニューを提供している。
- ・ 一部の高齢者向け宅食サービスは、一食あたりに対する市町村の助成を受けている。

【弁当容器の種類】

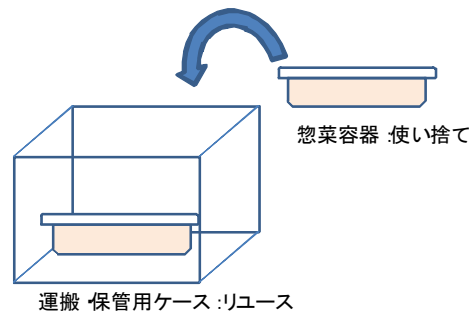
- ・ 事業所向けの昼食弁当は、リユース容器を使用している。
- ・ 一般家庭向けのサービスは、使い捨て容器で包装した惣菜を発泡スチロール製の運搬・保管用のケースに入れて配達している。発泡スチロールはリユースしている。

【回収・洗浄のプロセス】

- ・ 一般家庭からは、弁当の配達時に前日の容器を使い捨て容器も含めてすべて回収し、回収後に使い捨て容器は産業廃棄物として処分、運搬・保管用のケースは消毒して再利用している。
- ・ 事業所向けの昼食弁当は回収後に調理を行う工場で洗浄し、再利用している。

【容器の選択理由・メリット】

- ・ 一般家庭向けで使い捨て容器を使用しているのは、容器が軽いことが特に高齢者には喜ばれるためである。また、リユース容器の場合、洗浄をお願いしても実施されずに衛生面でのリスクが高まることが高齢者の場合は懸念される。
- ・ 事業所向けの容器は、保管時の強度や積み重ねが容易であることからリユース容器を使用している。



3. 宅配食サービスにおけるリユース食器の導入状況

宅配食サービスにおけるリユース食器の導入状況は、宅配食サービスへの新規参入が相次ぐ以

前から地域密着型の事業を実施している社会福祉法人や生協等では、従来からリユース容器が多く用いられる傾向にあると考えられる。一方で、高齢社会の進展を見込んで小売事業等から新たに参入し、全国的な事業を展開している大手事業者では、主に使い捨て容器が使用される傾向にあり、今後このような事業者の事業拡大に伴って使用される使い捨て容器の量が増加する可能性は高い。

リユース容器を使用している事業者では、弁当を配達する配達員が前日の空容器を回収するという回収システムを用いている。使い捨て容器を主に使用している事業者のなかにも、同様の回収システムによって使用済みの容器を回収している事業者もあるが、衛生的な観点から使い捨て容器を使用し、回収後の容器を産業廃棄物として処分している事例もある。このことから、リユース容器の導入の課題は、回収システムの構築よりも、衛生的な課題への対応にあると考えられる。

一方、使い捨て容器を主に使用している事業者においても、市町村からのリユース容器の指定や、利用者からのリユース容器に対する要望に対応して、リユース容器での提供も行っている点は、今後リユース容器を拡大するうえで注目に値する。これらの事業者においては、市町村や利用者側からアプローチを行うことで、リユース容器を拡大できる可能性がある。ただし、リユース容器の拡大には洗浄設備の増設が必要であり、購入費用が高額であることが課題として挙げられており、これらの課題への対策も併せて検討する必要があると考えられる。

(以上)